

2024年度 教科シラバス

高校1年 高入生

目次

現代の国語	2
言語文化	3
歴史総合	4
公共	5
数学I	6
数学A	7
物理基礎	8
生物基礎	9
体育	10
保健	11
音楽I	12
美術I	13
書道I	14
英語コミュニケーションI	15
論理・表現I	16
家庭基礎	17

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	現代の国語	特選(高入)	2	『現代の国語』 『読解を深める現代文単語』 『書いてマスター常用漢字』 『新訂国語総覧』 『LT現代文2』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>①論理の展開や要旨を的確に捉える。 ②物事に対する考え方を深める。 ③国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。 ④漢字テストや語彙テストを通して語彙力を増やし、漢検上位級の取得を目指す。</p>	<p>1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、教材で評論文を扱う場合は文章の要約を行う。また、記述の演習も積極的に取り入れていく。模試の過去問題の配付等、適宜宿題を課すので意欲的に取り組むこと。 3、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 4、定期考査毎に読書課題を出す。適宜指示に従うこと。 5、漢字検定対応のテキストを用いて、検定の上位級への合格を目指す。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション能力とは何か」…社会 ・「水の東西」…文化 ・「I was born」他 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『仮面の告白』（三島由紀夫）</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識のシステムを作る」…ことばと認識 ・「羅生門」他 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『地獄変』（芥川龍之介）</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感情暴走社会の由来」…ポストモダン ・「サラバ！」 ・実用的な文書 <p>【読書課題】 『陰翳礼讃』（谷崎 潤一郎）</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「白」…文化/認識 ・「城の崎にて」他 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『小僧の神様』（志賀 直哉）</p>	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命は誰のものなのか」…生命科学 ・短歌・俳句他 ・実用的な文章 <p>【読書課題】 『ハムレット』（シェイクスピア） 『倫敦塔』（夏目漱石）</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項 <p>②実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深められている。</p>	<p>授業内小テスト（漢字・語彙など） 定期考査</p>
思考力 判断力 表現力	<p>①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 <p>②他者（作品含む）との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p>	<p>定期考査</p>
主体的に 学習に 取り組む 態度	<p>①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。</p> <p>②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。</p> <p>③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>	<p>課題 グループワークまたは個人ワーク</p>

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	言語文化	特選(高入)	3	『言語文化』『体系古典文法』『体系古典文法ワーク』『重要古文単語315』『助動詞マスターノート』『基本セミナー漢文入門』『例文による漢文の習得』『力をつける古典1』『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。</p> <p>1、論理的な文章においては、次の2点を目標とする。 (1)論理の展開や要旨を的確に捉える。 (2)物事に対する考え方を深める。 2、文学的な文章においては、次の2点を目標とする。 (1)主題・構成・表現を正確に掴み、人物・情景・心情を的確に理解する。 (2)進んで読書・表現する態度を身につけ、物事を多角的に捉え立体的に表現する力を養う。 3、基本的な古文常識や古文の特徴を学ぶと共に、古典学習方法の基礎を学ぶ。 4、有名な古典作品の原文に触れることを通して当時の日本人の感性・文化・価値観について考え、国際社会における日本人としての教養を身につける。 5、用言・助動詞・敬語を中心とした古文読解に必要な基本的文法事項を身につけ、より精緻な読解を目指す。 6、漢文訓読の基礎を身につけ、日本人の生活に密着した基本的な漢文を理解する。 7、国立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的にを行い、確かな基礎力と実践力を培う。</p>	<p>1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 3、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかるが、各自でも復習・反復学習をすすめること。 4、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、品詞分解・単語調べをしておく。授業では、文法書や国語便覧を参照して文法事項及び作品の背景にも触れながら読解をすすめていく。重要な事項をしっかりとノートに取り、分からないところがあったら積極的に質問すること。また、復習の際に浮かんだ疑問点もそのままにはせず、自分で調べたり質問したりして、必ず解決するよう心掛けること。 5、漢文の学習においては、漢文の読み方をしっかり身に付けた上で、漢文で書かれた文章に触れていく。漢文の基本は中学校で学んだと思うが、忘れていた部分があったら授業に臨む前に復習しておく。また、分からないところはそのままにせず、積極的に質問すること。 6、古文単語や漢文の句法は小テストを行い、定着をはかる。また、テストで確認した部分についても、折を見て自主的に復習し、確かな知識としていくこと。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【古文教材】「兎のそら寝」他 【古文文法】歴史的仮名遣い、文節・単語、用言 【漢文教材】故事成語（朝三暮四）他 【漢文句法】訓点・書き下し文・置き字・返読文字	【古文教材】「天人の迎へ」他 【古文文法】用言、助動詞（過去・完了） 【漢文教材】故事成語（狐借虎威）または『十八史略』（管鮑之交）他 【漢文句法】再読文字	【古文教材】『伊勢物語』（芥川（東下り） 【古文文法】助動詞（使役・受身・推量） 【漢文教材】『十八史略』（先從隗始） 【漢文句法】否定・使役	【古文教材】『土佐日記』（門出（帰京） 【古文文法】助動詞（推量・断定） 【漢文教材】「雑説」韓愈 【漢文句法】受身・疑問・反語	【古文教材】『平家物語』（木曾の最期） 【古文文法】助動詞完成・敬語 【漢文教材】漢詩 【漢文句法】仮定・限定・詠嘆・抑揚 等

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。 ②日本の言語文化に対する理解を深められている。 ③生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。	授業内小テスト（単語・文法・漢文句形・漢文語彙など） 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 ②他者（作品含む）との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	定期考査
主体的に学習に取り組む態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	地理歴史	歴史総合	特選(高入)	2	教科書：歴史総合 近代から現代へ 副教材：明解歴史総合図説 シンフォニア

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>概要：現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、またそれがどのような現代的な諸課題と関わっているのか、課題意識を持って考察する。</p> <p>目標：(1)近現代の歴史に関わる諸事情について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>予習：授業予習動画を視聴し、授業用冊子の空欄穴埋めをする。必ずメモをとりながら視聴すること。</p> <p>授業：①【小テスト】予習動画の内容から出題する。 ②【目標の提示】本時の授業において理解すべき目標を提示する。 ③【講義】本時の目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。 ④【目標の達成】授業の冒頭にテーマとして提示された問に回答する。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成 とヨーロッパ人の海外進出 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 アメリカ独立革命とフランス革命	19世紀のヨーロッパ 19世紀のアメリカ大陸 西アジアの変容と南アジア・東南アジア の植民地化 中国の開港と日本の開国 明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 自由民権運動と立憲体制	条約改正と日清戦争 日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響	第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障 アジア・アフリカ地域の民族運動	大衆消費社会と市民生活の変容 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き 第二次世界大戦と太平洋戦争

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①予習動画や授業を通し、歴史の展開を理解することができる。 ②習得した知識をもとに、世界と其中的の日本の過去と現在を考察することができる。	定期考査 小テスト
思考力 判断力 表現力	①歴史的な事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握することができる。 ②学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえ、その解決を視野に入れて構想できる。 ③自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。	定期考査 授業達成度評価 その他
主体的に 学習に 取り組む 態度	①歴史的な事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。	授業達成度評価 ルーブリックによる自己・他者評価 その他

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	公民	公共	特選(高入)	2	【教科書】公共(東京書籍) 【副教材】ライブ!公共 2024(帝国書院)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 社会のあらゆる場面に存在する「想定外」と「板挟み」に焦点をあて、中学社会で身につけた知識や考え方を土台に、自分なりの考えをまとめ、行動へ移すきっかけをつかんでもらえるような授業を目指します。</p> <p>【目標】 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。</p>	<p>詳細は各学期の初回ガイダンスで説明します。</p> <p>【予習】 教科書に準じた映像授業の視聴を課すことがあります。</p> <p>【授業】 アクティブラーニング型授業を取り入れます。「想定外」と「板挟み」を楽しみ、さまざまな思考を深めていく経験は、自分の軸を作るべきこの時期に大変重要です。</p> <p>【復習】 基本的な用語を押さえることはもちろん、教科書の内容と時事問題をリンクさせながら捉えていくことも重要です。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方 公共的な空間における基本的原理	公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち 法の働きと私たち	法の働きと私たち 経済社会で生きる私たち	経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活 国際社会のなかで生きる私たち	国際社会のなかで生きる私たち

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	定期考査の得点 小テストの得点 など
思考力 判断力 表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	定期考査の得点 ワークシートへの取り組み状況とその内容 など
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	課題への取り組み状況とその内容 など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学 I	特選 (高入)	4	数学 I, 数学 II (数研出版) サクシード数学 I + A, II + B チャート(青) I + A, II + B

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学 I 全範囲を学習し、さらに数学 II 「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」を先取りする。</p> <p>① 「数と式」「複素数と方程式」を通して、計算を素早く正確にできるようになる。 ② 「2次関数」「図形と方程式」を通して、関数やそのグラフへの理解を深める。 ③ 「集合と命題」「式と証明」を通して、論理的に証明することができる。 ④ 「三角比」「データの分析」を通して、数学的な見方から事象を考察できる。</p>	<p>授業用のノートと、家庭学習(問題集)ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する(数学は特に復習を重視する)。 ② 適宜、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程(途中式や文章)も書く。 ⑤ 長期休業中の講習では原則授業を行うので、全員参加が望ましい。</p>

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	(数 I) 数と式 (数 I) 集合と命題	(数 I) 2次関数 夏季講習 (数 I) 図形と計量	(数 I) データの分析 (数 II) 式と証明	(数 II) 式と証明 (数 II) 複素数と方程式 冬季講習 (数 II) 図形と方程式	(数 II) 図形と方程式 春季講習 (数 II) 図形と方程式

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	数学 I 全範囲および数学 II 「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査(計算など基本問題) ・復習確認テスト(計算など基本問題)
思考力 判断力 表現力	「集合と命題」「式と証明」における証明の組み立て、「2次関数」「図形と方程式」におけるグラフによる関数の分析など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査(記述など応用問題) ・復習確認テスト(記述など応用問題)
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学A	特選（高入）	2	数学A，数学B（数研出版） サクシード数学I+A，II+B チャート(青)I+A，II+B

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>数学A「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」，数学B「数列」を学習する。特に「数列」は「場合の数と確率」「数学と人間の活動」と関連があり，後に学習する数B「統計的な推測」にもつながるため，基本の理解を徹底する。</p> <p>① 場合の数や確率の性質を理解し，現象を多面的に考察することができる。 ② 図形の基本的性質を理解し，論理的に考察したり説明することができる。 ③ 整数の性質を理解し，数理的に考察することができる。 ④ 漸化式と一般項について理解し，数学的帰納法を用いて考察することができる。</p>	<p>授業用のノートと，家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。</p> <p>① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。 ② 適宜，復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後，必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく，導き出す過程（途中式や文章）も書く。 ⑤ 長期休業中の講習は原則授業を行うので，全員参加が望ましい。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	(数A) 場合の数と確率	(数A) 場合の数と確率 (数A) 図形の性質	(数A) 図形の性質 (数A) 数学と人間の活動	(数A) 数学と人間の活動 (数B) 数列	(数B) 数列

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」「数列」における基本的な概念，原理や法則，用語や記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査（計算など基本問題） ・復習確認テスト（計算など基本問題）
思考力 判断力 表現力	「場合の数と確率」における場合分け，「図形の性質」「数学と人間の活動」における証明の組み立て，「数列」における数学的帰納法など，計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査（記述など応用問題） ・復習確認テスト（記述など応用問題）
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い，課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく，身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	物理基礎	特選 (高入)	2	物理基礎(第一学習社) セミナー物理基礎(第一学習社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】物理学は自然現象をよく観察して、さまざまな現象に存在する法則性を発見することから始まります。そのような法則は、自然がどのように成り立っていることによるのかを研究して、最終的には自然の本質にせまろうとする学問です。また、さまざまな自然現象に共通する原理や法則を発見するために、実験を通して、その測定データを分析することにより、原理や法則を見出していきます。</p> <p>物理基礎では、力学から始まり、物理学の自然理解の方法を学びつつ、熱、波動、電気について学びます。</p> <p>【目標】大学入試共通テスト、大学入試問題に対応できる基礎力を身につける。</p>	<p>1. 基礎的な内容を理解する上で演習を多く取り入れ、知識の定着をはかります。また、単元によっては、実験なども取り入れ、科学的な理解を深めていきます。</p> <p>2. 講義を中心に学習を進めていき、自然現象の法則性、さらには、自然の実態を理解していきます。さらに、練習問題、入試問題を解くことでその理解の定着をはかります。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 等加速度直線運動 4. 落体の運動	第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い 3. 運動の法則	4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事まで	2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 5. 熱とエネルギー	第1章 波 第2章 音 第4編 電気 第1章 物質と電気

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けていること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	物理的な事物・現象の中に問題を見出し、観察実験などを行うとともに、事象を実証的論理的に考えたり、分析的統一的に考察したりして、事実に基づいて判断できること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけていること。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	生物基礎	特選（高入）	2	高等学校 改訂 生物基礎（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>【概要】 生物の体を構成する細胞の構造と働きから始まり、光合成や呼吸のしくみを学習します。遺伝の章では、遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝子として働くしくみ、細胞内での遺伝子の発現について学びます。次に生体防御のしくみや体内環境維持のしくみに入り、最後に生態系の学習で締めくくります。</p> <p>【目標】 生物の体のしくみや生命現象についての基本的な知識を学び、大学入試共通テストに対応できる学力の育成を図ります。</p>	<p>① 基礎的な内容から発展的なものまで、科学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。</p> <p>② 問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。</p> <p>③ 学習内容、時期によっては、授業動画（オンデマンド教材）も活用します。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き	第2編 生物の体内環境の維持（前半） ◇体液とその働き ◇体内環境の維持のしくみ	第2編 生物の体内環境の維持（後半） ◇生体防御	第3編 植生の多様性と生態系（前半） 第4章 植生の多様性と分布	第3編 植生の多様性と生態系（後半） 第5章 生態系とその保全

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力判断力表現力	◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に学習に取り組む態度	◇自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	保健体育	体育	共通	2	

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. 運動技能・体力の向上、健康の増進、安全に対する知識・判断力を習得する。</p> <p>2. 学校内はもちろん、学校以外の生活の場面でも、健康で明るい生活を送ることができるような身体作りをする。</p> <p>3. 中学で修得した個人技能に加え、連携プレーなどで協力の精神を養う。また、スポーツ全般の基礎となる陸上競技を取り入れ、全身の持久力、瞬発力を高め筋力の増強に努める。</p> <p>4. 体育祭を通し、集団の中で果たすべき責任を全うする能力を身に付ける。</p> <p>5. 体育行事（主にTRF）を通して困難を前にたじろがない強い心を身に付ける。</p>	<p>・体育については、所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で実施する。</p> <p>※各種事情により取り扱う運動領域を変更する場合あり。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	集団行動 体育祭練習	体育祭練習 球技Ⅰ 体カテスト	体カテスト 球技Ⅱ	球技Ⅱ	球技Ⅲ 持久走

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 ・自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
思考力 判断力 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。 	授業（単元）の目標到達における自己評価・他者評価の他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況など）の資料を基に総合的に判断する

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	保健体育	保健	共通	1	大修館書店「新高等保健体育」

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1. 多様化するライフスタイルの中で、生涯を通じいかに健康を維持し安全に過ごすことができるかを学ぶ。</p> <p>2. 個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深める。</p> <p>3. 生活習慣病を理解し、より健康的なライフスタイルを身につける。</p>	<p>①本時の内容確認 → 講義・演習 → 本時のまとめ</p> <p>②授業には、教科書・ノート・配布プリントを用意しておくこと。</p> <p>③iPadをグループワーク・課題提出で使用する場合がある。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	01日本における健康課題の変遷 02健康の考え方と成り立ち 03ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	04健康に関する意思決定・行動選択 05現代における感染症の問題 06感染症の予防	07性感染症の予防 08生活習慣病の予防と回復 09身体活動・運動と健康	10食事と健康 11休養・睡眠と健康 12がんの予防と回復	13喫煙と健康 14飲酒と健康 15薬物乱用と健康 16精神疾患の特徴 17精神疾患への対応

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	・各学期の期末考査と平常点（授業への取り組み、出席状況、課題提出状況など）の資料を基に判断する
思考力 判断力 表現力	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	・各学期の期末考査と平常点（授業への取り組み、出席状況、課題提出状況など）の資料を基に判断する
主体的に学習に取り組む態度	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	・ディベート、グループ発表、体験的活動などの取り組み状況を基に判断する ・提出物の提出状況

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	芸術	音楽I	共通	1	高校生の音楽1・2 (教育芸術社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>自己のなかにある「自分ならではの感じ方」を見出し、それに自信をもって磨いてゆく姿勢を育む。</p> <p>歌唱 発声の仕組みを理解し、様々な言語やジャンルで歌う 器楽 ギターの奏法を学び、表現の基礎を作る 鑑賞 楽器の特性や音色を踏まえて鑑賞する 楽典 音階の仕組みや音名を理解する 創作 曲作りのルールを学び、型を用いて創作する</p>	<p>音楽室にて行います。 授業の始めに鑑賞を行い、その後各単元の学習に入ります。 実技は ・模範唱、模範奏を聴く ・自分の力で挑戦する ・仕組みを学ぶ ・表現を考える の流れで展開し、音楽的な自立を目指します。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	オリエンテーション(「芸術とは?」) 発声の仕組み 独唱:テンポの揺れによる表現 日本歌曲「この道」 鑑賞:楽器の特性や音色を踏まえて	楽典:音階の成立・音名 創作:旋律創作 コードに沿った創作 鑑賞:楽器の特性や音色を踏まえて	ギター入門:旋律奏 独唱:イタリア語の歌曲 「O sole mio」 鑑賞:楽器の特性や音色を踏まえて	ギター入門:コード奏 独唱:ドイツ語の歌曲 「野ばら」 鑑賞:楽器の特性や音色を踏まえて	少人数アンサンブル 鑑賞:楽器の特性や音色を踏まえて

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	自己の感性を働かせ、楽曲の文化・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。自己の感性を働かせ、音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による理解度」をもとに総合的に評価する。
思考力判断力表現力	自己の感性を働かせ、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。自己の感性を働かせ、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による解釈表現の内容」・「鑑賞課題」終了後提出の「感想」をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、音や音楽を生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に取り組もうとする。	「各回授業内容に対する熱意・態度」・「振り返り」の仕方とその発展度・「課題の提出状況及び内容」・「出席状況」から総合的に判断する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	芸術	美術I	共通	1	美術I(光村図書)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>美術では「技術」の習得のみが重視されがちですが、「表現」も大切に学んでいきます。</p> <p>●技術 平面 絵画・デザイン・版画など 立体 彫塑・木工・金工・クラフトなど 鑑賞 海外、日本、現在、過去、友人と古今東西の作品できるだけ多くの制作方法や素材に触れて、制作・鑑賞をします。</p> <p>●表現 技術での制作や鑑賞を通して、「表現したいこと」に向かって自分がどう取り組んだか、また人はどう取り組んでいるのかを知ります。そもそも表現とは日常にあふれていることなので、日常生活や他の勉強の中で活かしていきます。</p>	<p>1：題材の設定の趣旨説明 2：下書き、下絵の作成 3：制作の決定 4：彩色や質感の施し 5：完成度の追求</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション ●油彩「静物画」 ・趣旨説明 ・アイデアスケッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ●油彩「静物画」 ・下がき ・制作（下塗り、基本の色をのせる） 	<ul style="list-style-type: none"> ●油彩「静物画」 ・制作（陰影、質感をつける） 	<ul style="list-style-type: none"> ●デザイン「飲料パッケージデザイン」 ・趣旨説明 ・アイデアスケッチ ・下がき 	<ul style="list-style-type: none"> ●デザイン「飲料パッケージデザイン」 ・制作

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	<p>社会性のある、より専門的な知識・技能を培っている。</p> <p>創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。</p> <p>美術的な知識を活かしながら美術作品を鑑賞する。</p>	<p>作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狙い通りの描写ができてきているか。 ・材料、用具を生かす力があるか。
思考力 判断力 表現力	<p>日常の中で感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。</p> <p>作品から感じ取ったイメージを具体的な言葉で表現する。</p>	<p>作品及び提出物を、以下の項目を中心に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想力、構想力があるか。 ・意図した色を作り出すことができてきているか。 ・アイデアやイメージを表現できてきているか。
主体的に学習に取り組む態度	<p>美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、その喜びを味わおうとする。</p>	<p>作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に興味を持って、意欲的に取り組んでいるか。 ・主題を最後まで作り上げる姿勢が見られるか。 ・提出期限が守られているか。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	芸術	書道I	共通	1	書道I(教育出版)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>1 書道Iは、楷書、隷書を中心に、行書、仮名、篆書、篆刻の各書体を学び、基本技法、表現力、創造力、集中力を養う。</p> <p>2 書の楽しさ、美しさを体験し、表現力、創造力の向上を目指します。</p> <p>3 楷書、行書、隷書、仮名の技法を習得し、目的に応じた表現をしましょう。</p> <p>4 文字の美しさ、点や線、形、リズム、流れの美しさを理解し、表現しよう。</p> <p>5 古典を学習し、伝統的技法、芸術的創造力を養います</p>	<p>1 書道Iの学習は、単元内容の解説、鑑賞、学習、実習、練習、制作、評価の方法で行います。</p> <p>2 授業は、解説、鑑賞、学習、実習、臨書、創作、清書、提出、評価の流れで展開します。</p> <p>3 授業には、教科書、書道用具一式(紙・筆・硯・墨・下敷き・鉛筆)を用意して下さい。</p>

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 書の芸術性と歴史</p> <p>3 書の美とは</p> <p>4 唐代の楷書「孔子廟堂碑・九成宮禮泉銘」</p>	<p>1 唐代の楷書「建中告身帖・雁塔聖教序」</p> <p>2 唐代の楷書「牛橛造像記・鄭義下碑」</p> <p>3 書道甲子園出品作品制作</p>	<p>1 藍桐祭作品制作</p> <p>2 隷書「曹全碑」</p> <p>3 篆書の基本</p>	<p>1 篆刻 名印制作</p> <p>2 行書「蘭亭序」鑑賞</p>	<p>1 小筆 平仮名</p> <p>2 小筆 変体仮名</p> <p>3 小筆 和歌制作</p>

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、書の実用性を確認しながら、美しさを創造的に味わう。 書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付ける。	課題の提出物の仕上がりにより評価します。各課題の観点毎に古典に基づいた臨書の力を基準にします。
思考力 判断力 表現力	感性を働かせて書の美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	発想力や作品構成力のもと、自らの仕上がり具合を判断する力を評価します。課題の観点毎に墨色や流れを重視します。
主体的に学習に取り組む態度	書を愛好し、書の文化に関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	授業への関心意欲、およびオンライン、オンデマンドにおける課題の提出状況などを評価します。 授業準備や教室整備なども含む。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	英語 コミュニケーション	特選（高入）	4	CROWN English Communication I DUO 3.0 SKYWARD【CLOUDS】 英検 S特2級

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
<p>自学自習の習慣を確立し、自立した学習者を目指す。 適切な教材とアプローチを用いて、言語習得に必要な土台を獲得していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『CROWN I』を利用し、英文の精読と音読を実践する。 『SKYWARD【CLOUDS】』を利用し、英文の速読と多読を実践する。 『DUO』を用いて、語彙を定着させる。 ネイティブ教員の授業では『Shape it! Level 2』を用い、英語の実践的な運用力を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 『CROWN I』『SKYWARD【CLOUDS】』の予習を実施する。 授業で解説を聞き、間違えた箇所は訂正を入れ、理解を深める。 家庭学習では繰り返し音読をし、学んだ英単語・熟語、英文を頭に染み込ませる。 習得した英単語・熟語・構文を応用して自分で英文を組み立て、発信できるようにする。 ポキャブラ・コンテストを実施し、語彙の定着を図る。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①CROWN I Lesson 1～2 ②SKYWARD【CLOUDS】 / 英検 Unit 1～3	①CROWN I Lesson 3～4 ②SKYWARD【CLOUDS】 / 英検 Unit 4～7	①CROWN I Lesson 5～6 ②SKYWARD【CLOUDS】 / 英検 Unit 8～12	①CROWN I Lesson 7～8 ②SKYWARD【CLOUDS】 / 英検 Unit 13～16	①CROWN I Lesson 9～10 ②SKYWARD【CLOUDS】 / 英検 Unit 17～20

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。	定期考査の成績による
思考力 判断力 表現力	多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。	定期考査の成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。	小テスト、提出物、平常点、English Conversationの成績

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	論理・表現 I	特選（高入）	3	FACT BOOK I New Angle総合英語, New Angle English Grammar 47 Textbook, New Angle English Grammar 47 Workbook / Vintage / Navigator

教科・科目の概要と目標

学習方法と流れ

<p>Autonomous Learning（自律学習）を習慣化していく。 厳選されたマテリアルと適切なアプローチを用いて、言語習得に必要な土台を獲得していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『New Angle総合英語』を用いて、英文法を網羅的に学習する。 『New Angle 47 Textbook』を用いて、英文法への理解を深める。 『New Angle 47 Workbook』を用いて、英文法を反復練習する。 『Vintage / Navigator』を用いて、英文法を定着させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業の進度に合わせて『New Angle総合英語』を用い、英文法を根幹の部分から深く理解する。指定された範囲を熟読する。 授業前の課題として、『New Angle 47 Textbook』の指定された解説ページ（左側）を熟読し、その右側ページの問題に取り組んでみる。 授業で解説を聞き、間違えた箇所は復習し、次は正解できるように反復練習を積む。 該当箇所の英文法を家庭学習にて『New Angle 47 Workbook』を用い練習する。
---	--

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	①New Angle (14～15コマ) Unit 31・32 接続詞 Unit 46・47 前置詞 ②Vintage or Navigator 第9章 接続詞 第10章 前置詞 【前置詞idiomP454～463】	①New Angle (13～14コマ) Unit21～24 関係詞 Unit39～42 名詞・冠詞・代名詞 ②Vintage or Navigator 第8章 関係詞 第18～19章 名詞・代名詞の語法 【名詞idiomP434～453】	①New Angle (14～16コマ) Unit25～27 比較 Unit43～44 形容詞・副詞 ②Vintage or Navigator 第11章 比較 第20～21章 形容詞・副詞の語法 【形容詞・副詞idiomP420～433】	①New Angle (16～18コマ) Unit33～38 話法・否定・強調・倒置・名詞構文・無生物主語 Unit45 疑問詞と疑問文 ②Vintage or Navigator 第12～16章 主語と動詞の一致・疑問文・否定・語順・話法	①New Angle (16～18コマ) 総復習 時制・仮定法・関係詞・比較 ②Vintage or Navigator 第1章時制・第4章仮定法 第8章関係詞・第11章比較

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	様々な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。理解力の助けとなる語彙力や文法力を含む理解と運用を心掛けている。	定期考査の成績による
思考力 判断力 表現力	多くのインプットを理論的に行うと同時に、それがアウトプットである表現力に結びつくよう努力している。	定期考査の成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。	小テスト、提出物

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	家庭	家庭基礎	共通	2	図説 家庭基礎（実教出版）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 男女が協力し合い、家庭・家族や社会の一員としての役割と自覚を養う。 2. 衣・食・住に関する基礎的な知識を習得する。 3. 社会の変遷に対応できる能力と知識を身につける。 4. 授業を通して、自らの生活を積極的に築き上げるための力を養う。 5. グループ学習を通して、協調性や物事を計画的に進める力を身につける。 6. 実験・実習を通して、体験的に「生きる力」を身につける。	① 本時の内容確認 → 講義・演習・実習 → 本時のまとめ・片付け ② 授業には、教科書・配布プリント・ファイル（学校で配布されたもの）を用意しておくこと。 ③ 実習に関しては、指示されたものを用意しておくこと。 ④ 課題や実習などの取り組み状況は、平常点の一部として評価する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	自分らしい生き方と家族	自分らしい生き方と家族 経済的に自立する	経済的に自立する 消費者行動を考える	消費者行動を考える 食生活を作る	食生活を作る

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身に付けている。また、生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。	学期末考査、製作した作品の完成度、及び提出物をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	授業を通して自分の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造して表現できる。	学期末考査、製作した作品の完成度、授業内発表、及び提出物をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	日々の生活関心をもち、生活を充実向上するために知識や技術を進んで身につけ実践しよう態度が見られる。	授業への取り組み、製作した作品への意欲（作品に取り組む態度、期日に向けての計画性）、及び授業内発表についての自己評価、及び相互評価をもとに総合的に評価する。